

# インターンシップモデル事業アンケート報告



Japan Tourism Agency Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

2011.11.22 第2回観光ホスピタリティマネジメント人材育成推進ワーキンググループ

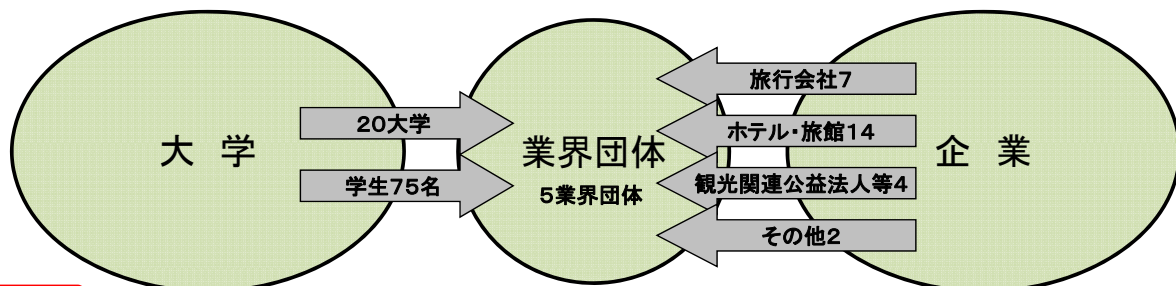
## インターンシップモデル事業実施概要



より教育効果の高いインターンシップ推進の方向性に沿って、業界団体の仲介のもとインターンシップモデル事業を平成20年度より実施

### インターンシップモデル事業のポイント

- ① 大学・学生側と企業側が遵守すべき事項を明確化(大学と企業との間で受入条件等に関する覚書を交わす等)
- ② 大学・学生側と企業側の間に業界団体が入り、インターンシップ成立までの過程を円滑化(大学・学生側と企業側双方の窓口の一元化等)



### 主な実習内容

施設見学(観光施設、旅客施設など)、資料作成、調査補助、実地研修(宿泊、料飲、カウンターなど)  
セールス同行、メディアセールス、パンフレット作成、旅行プラン作成、webサイト更新作業補助  
会議出席 報告会・プレゼンなど

### 実習期間

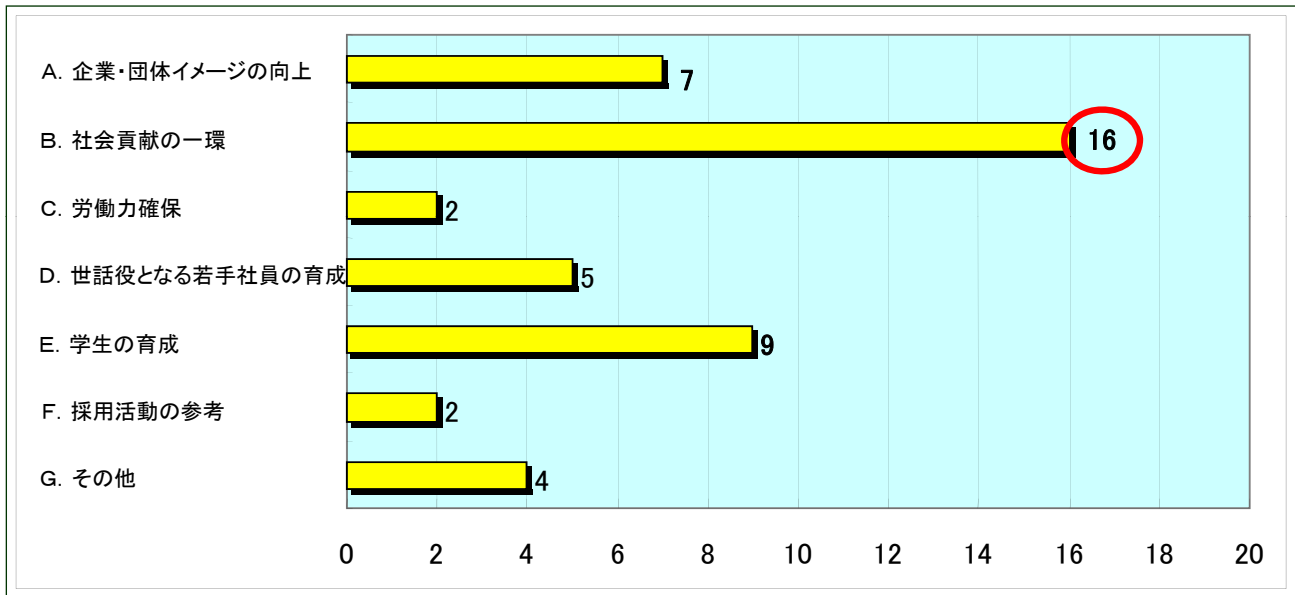
- ・2週間以下 14 旅行業6、宿泊業3、運輸・その他5
- ・3週間 5 旅行業1、宿泊業4
- ・1ヶ月以上 5 宿泊業4、運輸・その他1

※マッチング未成立の3箇所は計上せず

### 実習スタイル

- ・業務経験中心 17 旅行業5、宿泊業10、運輸・その他2
  - ・課題付与中心 7 宿泊業4、運輸・その他3
- ※多企業連続型インターンシップのみ参加の3社を除く

質問：インターンシップ受入のメリットをどこに感じていますか。(3つまで)



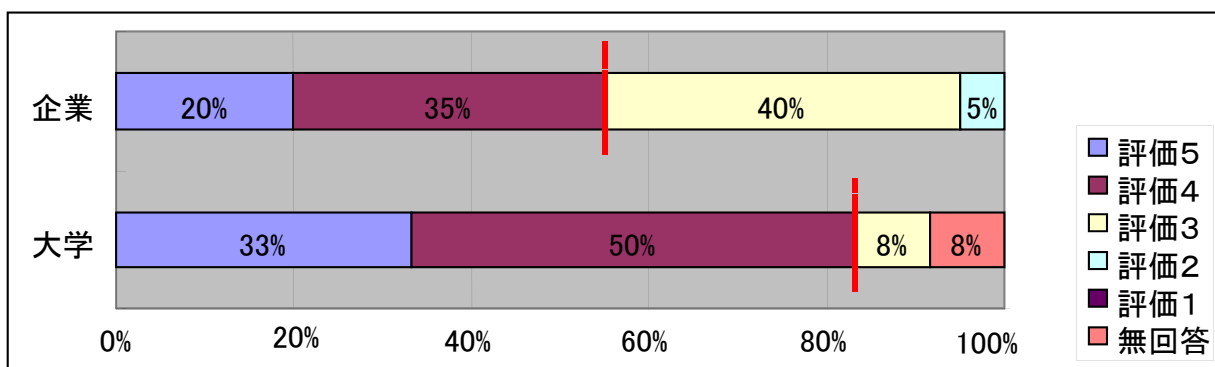
インターンシップに対する企業の受け止め方は「社会貢献」が群を抜いて高く、採用や企業PRといった直接的なメリットはあまり見出せていない。  
このため、インターンシップの受け入れには受動的な態度を取る傾向にある。

2

## 当モデル事業に対する総合評価

大学側の評価基準：学生への教育効果、事務作業の負荷、大学の施策への貢献度  
企業側の評価基準：会社への貢献度(採用、イメージ等)、事務作業の負荷

上記基準に基づいた両者による5段階評価は以下のとおりである。

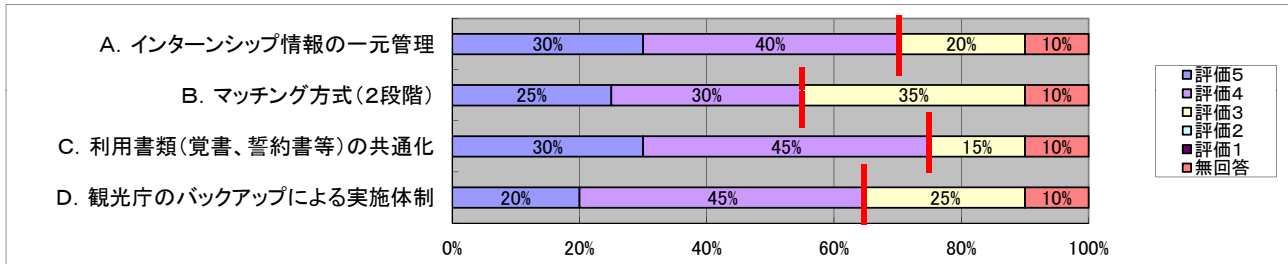


大学による評価はかなり高いが、企業からの評価はあまり高くない  
また、学生へのアンケートによると、約9割の学生が「評価4」以上をつけていることから、企業による社会的貢献に大学及び学生が恩恵を授かっている、という構図となっている。

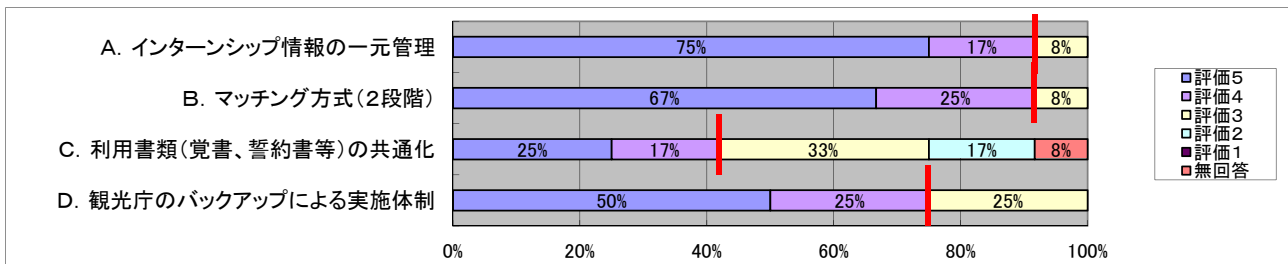
3

当モデル事業には、「業界団体の仲介によるインターンシップ情報(参加大学、参加企業等)の一元管理」「複数の受入企業と複数の学生とのマッチング」「覚書等の書類の共通化」「観光庁のバックアップ(観光庁の名義)による実施」の4つの特徴がある。

## 企業側の評価 (最高5～最低1)



## 大学側の評価 (最高5～最低1)



インターンシップの拡大には、現状においては、企業側の受入負担を如何に軽減するか重要であり、企業からの評価が高かった「利用書類(覚書、契約書等)の共通化」について、大学側の低評価(書類は共通化されたが記入方法が複雑であること)を踏まえ、これをさらに簡素化していくことが改善策となる。